

自由、公平で信頼できる移行選挙と社会サービスの提供が可能な環境構築の推進によるコミュニティと国民統一暫定政府（R-TGoNU）との間の信頼関係の促進



ファクトシート

日本補正予算：2021年3月～2022年3月

予算：210万8,909米ドル

主なパートナー：南スーダン政府、国連機関、国際協力機構（JICA）、非政府組織（NGO）

目的

このプロジェクトの背景にあるのは、人々が恒久憲法の策定と選挙の過程に対して一層の信頼と自信を持ち、改善された社会サービスから便益を受けることができれば、南スーダンが紛争状態に戻る可能性は低くなるであろうという考えです。コミュニティ間の信頼は著しく向上し、不満は、紛争処理と改善された基本的な市民サービスの提供が可能な能力を持つ機関により平和裏に対処されることとなります。

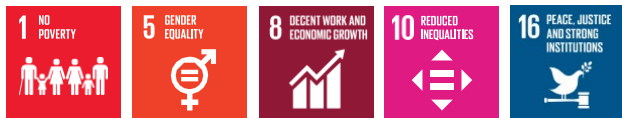
プロジェクトの成果

成果1：自由、公平で信頼できる移行選挙が可能な環境を向上させること

成果2：国およびコミュニティによるサービス提供が可能な環境を向上させること

SDGsへの貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標1、5、8、10および16に貢献します。



From
the People of Japan

開発課題

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は南スーダンの平和構築活動に対する脅威となり、国家と地方の両方で和平合意の実行を遅らせています。南スーダンにおける衝突の解決に関する再活性化された合意（R-ARCSS）は、公正、自由で民主的な国政選挙が移行期間終了の60日前までに実施されることを求めています。

残された時間は27カ月となり、南スーダンは、必要な改革の積み残しや選挙管理に関する能力の不足、不十分な経験を認識したうえで、選挙に向けた初期の準備を早急に開始する必要があります。過去の紛争事案のように、適切な選挙管理が行われなければ、結果的に紛争状態に逆戻りしてしまうことになりかねません。